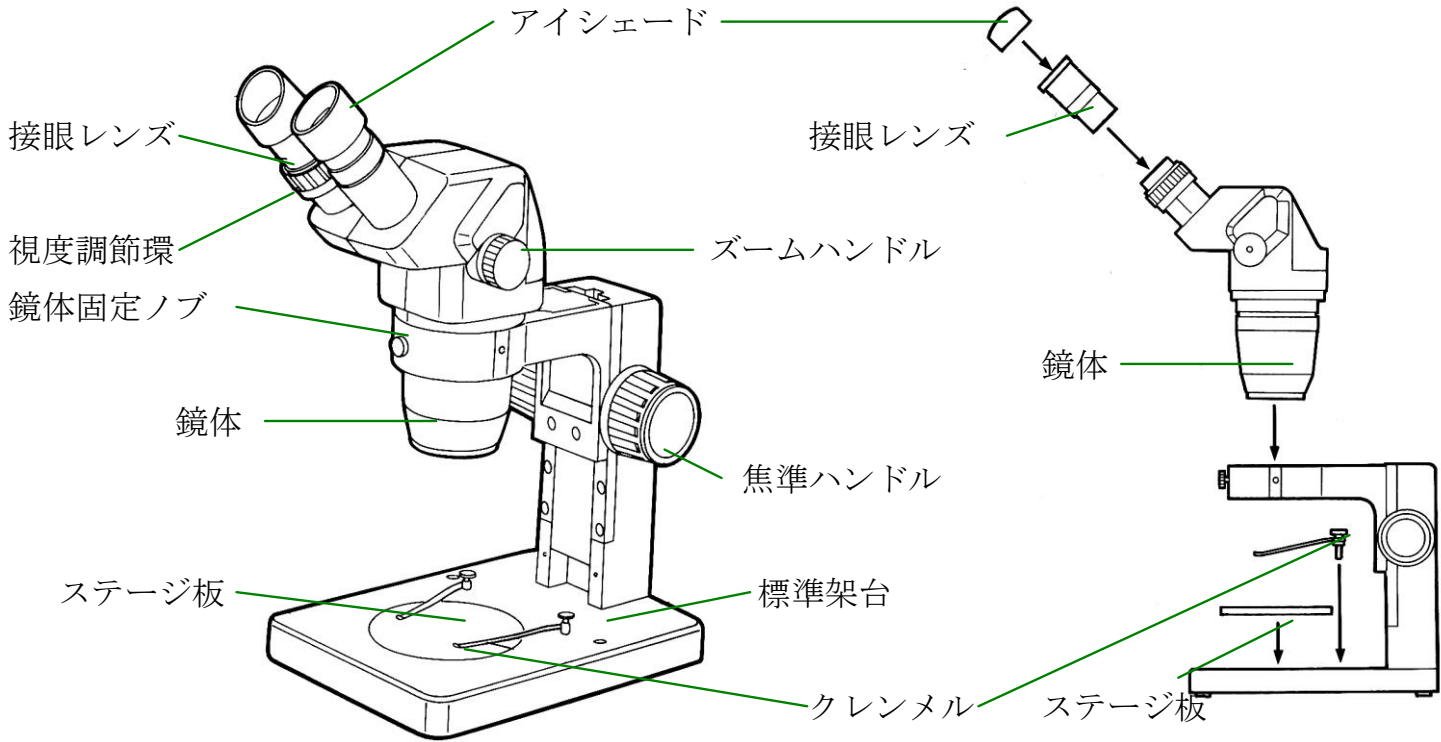
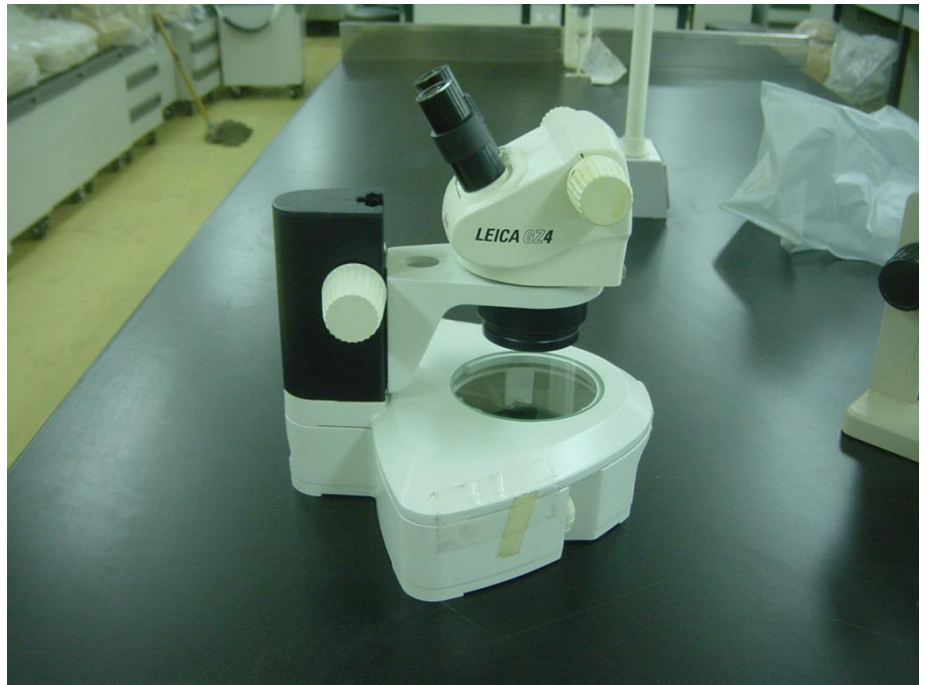


実体顕微鏡の取り扱い方



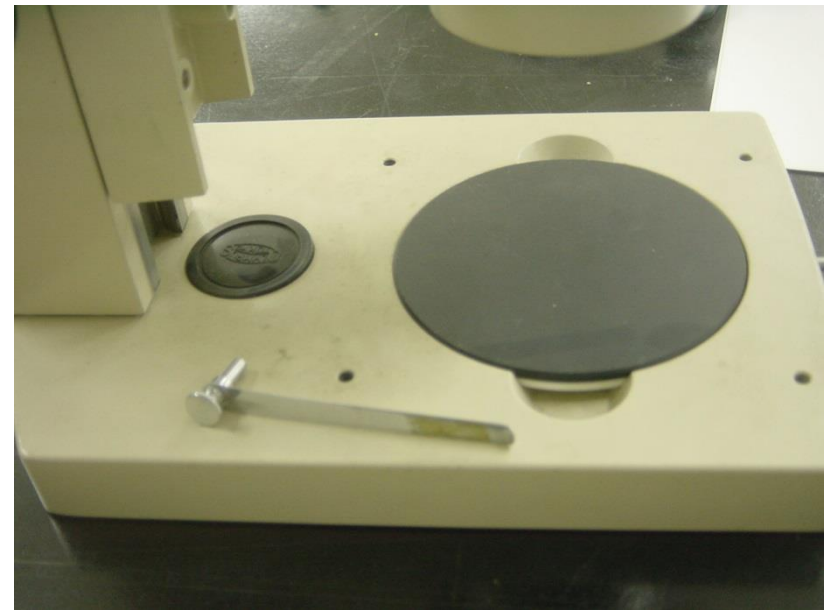
生物生産学科の実習では上記4種類(ニコン・オリンパス・ライカ)の実体顕微鏡が使われている。



接眼レンズは取り外すことができる。

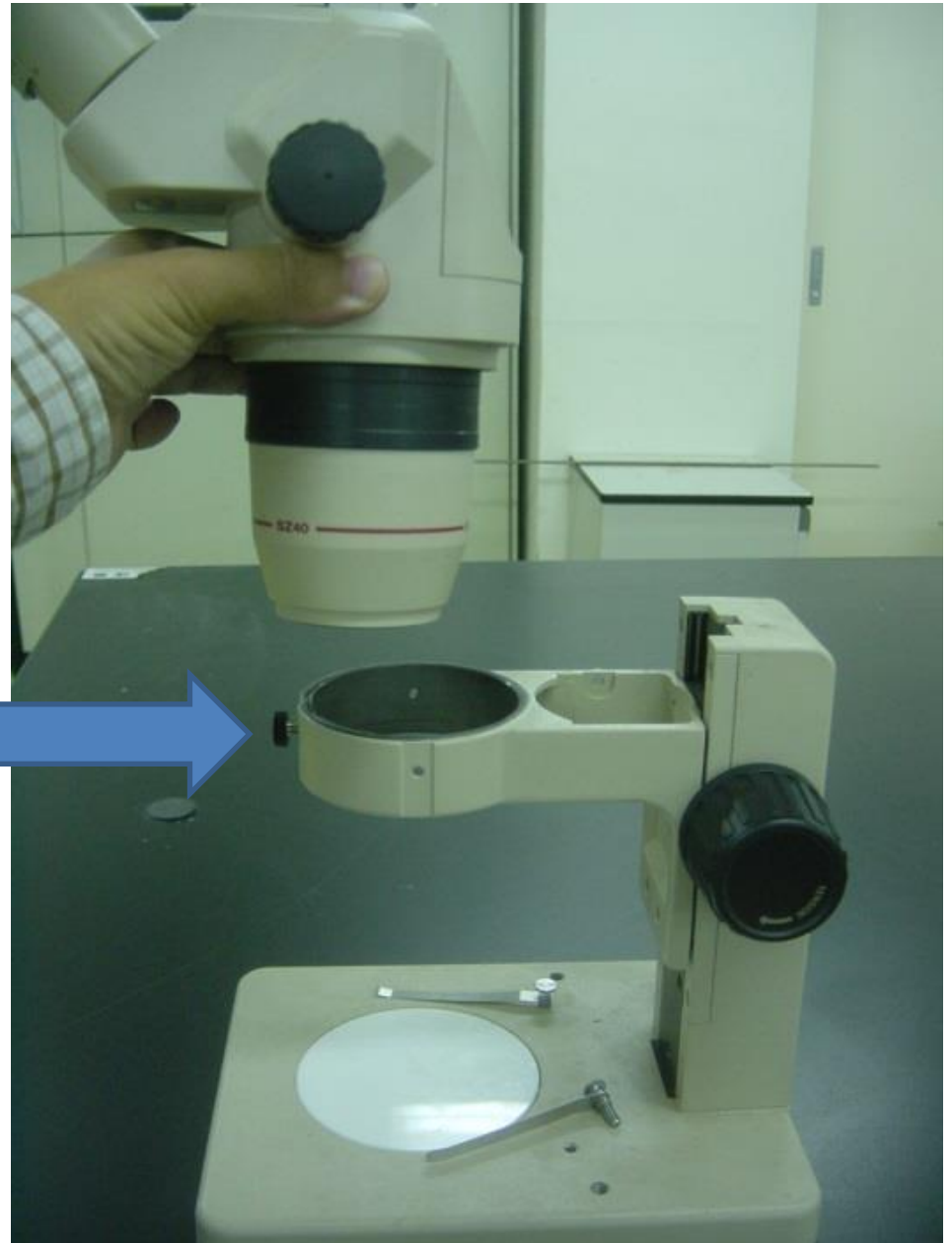
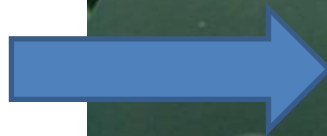


クレンメルはだいたい必要ない。解剖皿を使う時は外す。



本体も鏡体固定ノブを緩めると鏡体もはずせる。

鏡体固定ノブ



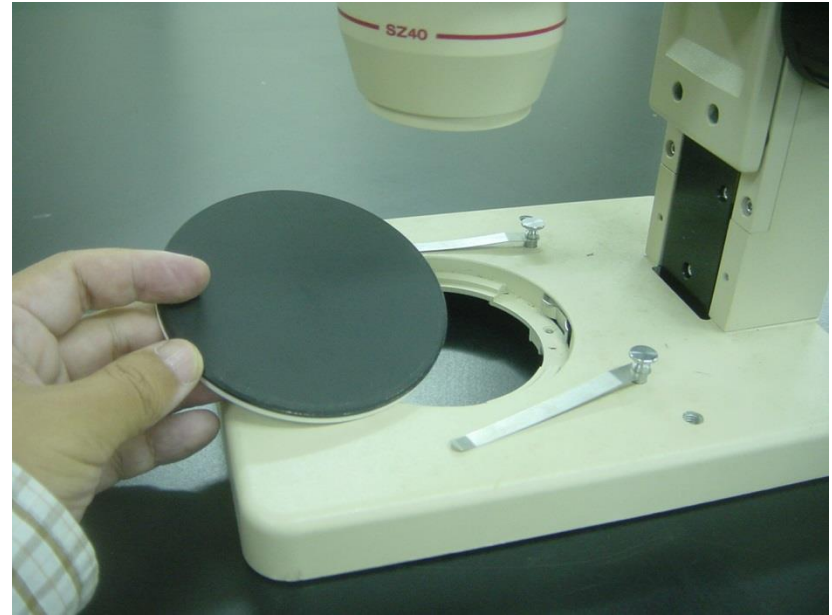
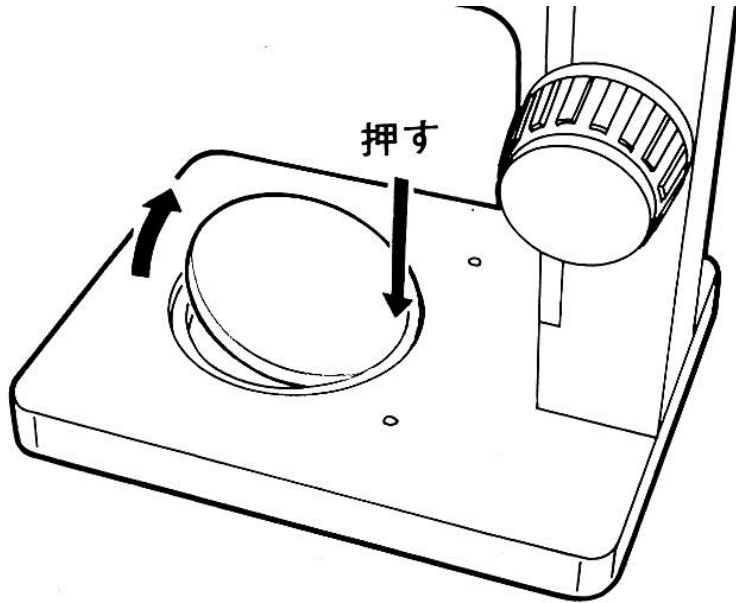
本体も鏡体固定ノブを緩めると鏡体もはずせる。

作業により、鏡体の向きを変える。



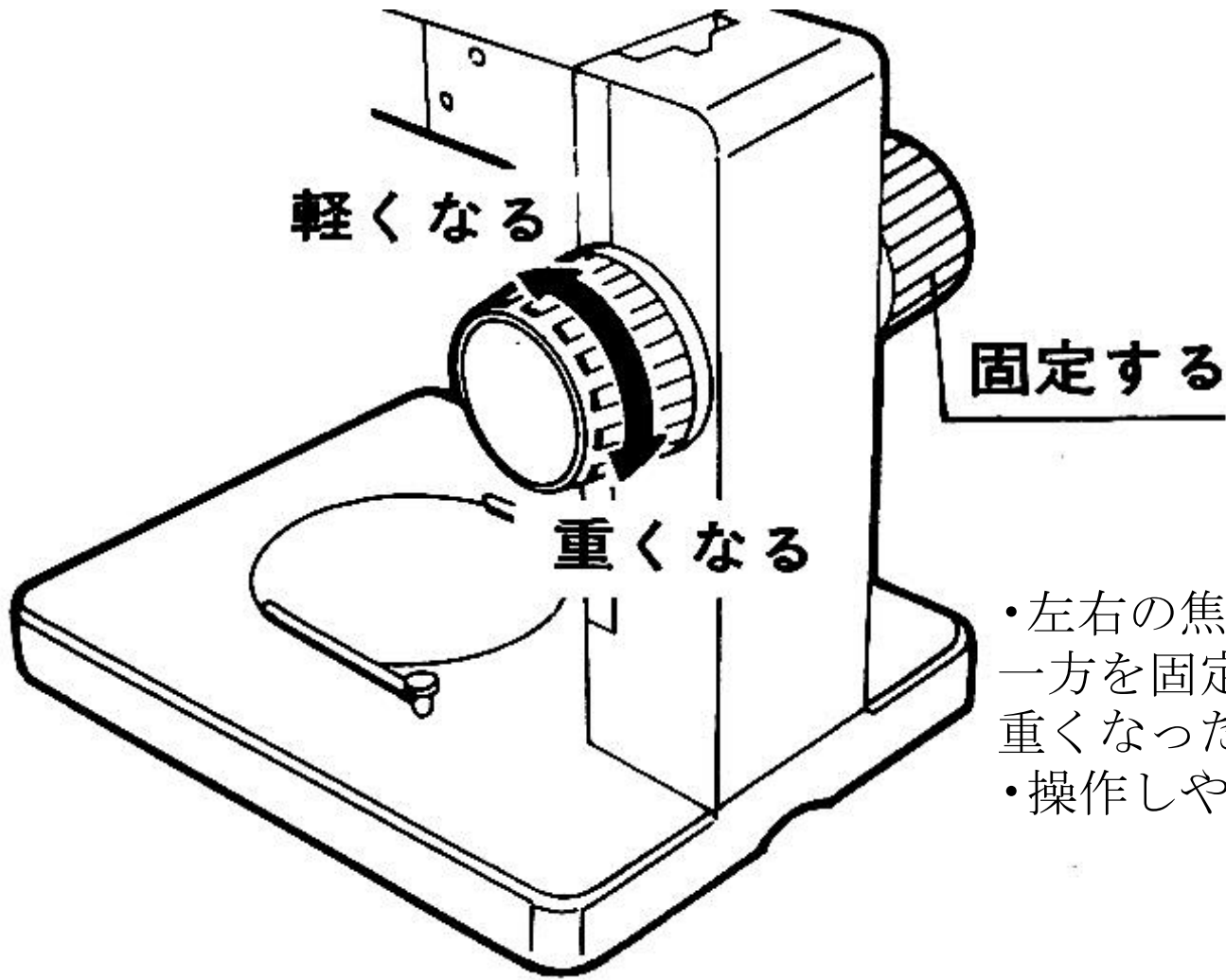
2. 使用法

(1) ステージの使い方



ステージ板は取り外せる。
白い面、黒い面、試料に合わせて使い分ける。

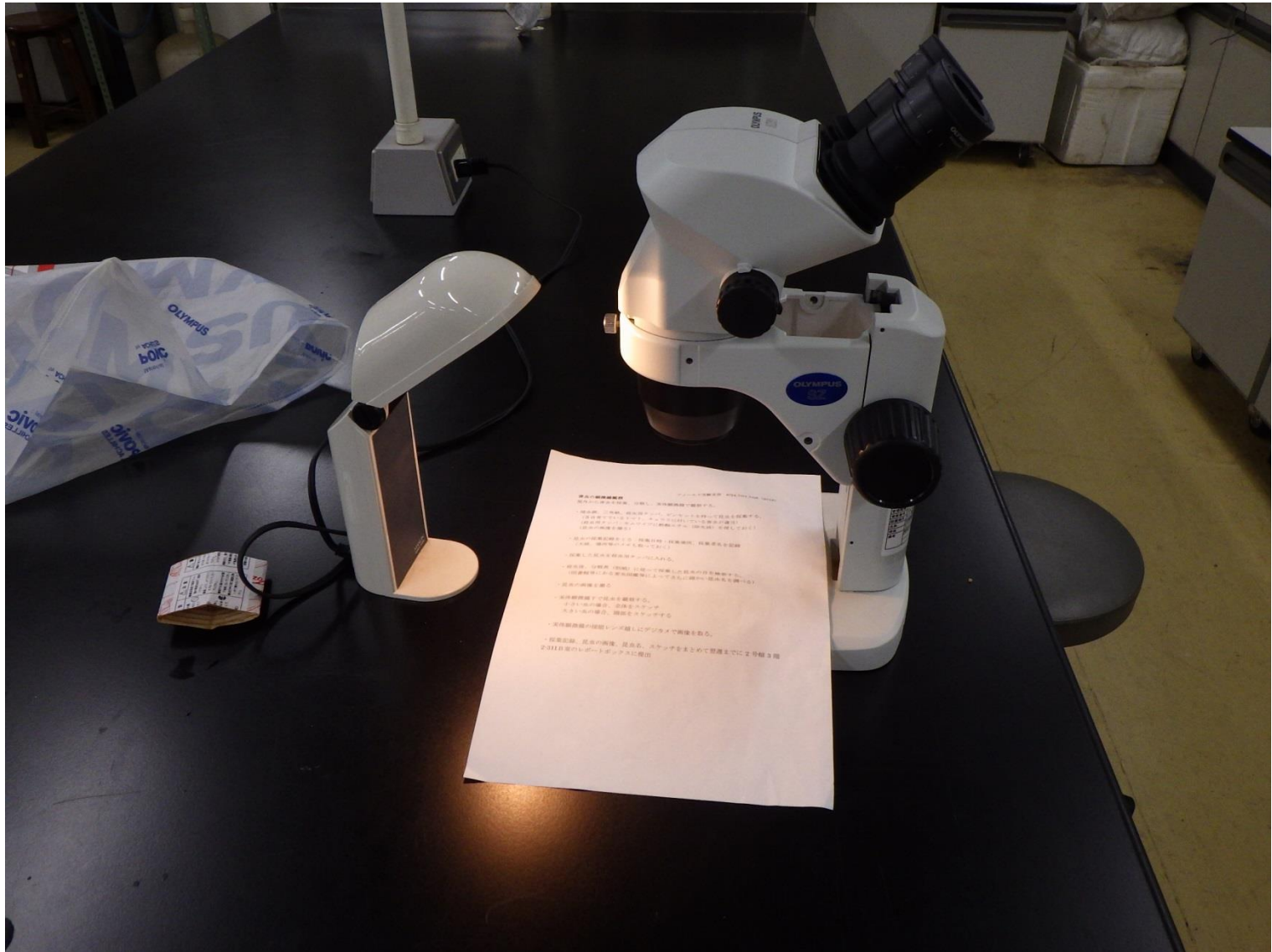
(2) 焦準ハンドルの回転重調節



- 左右の焦準ハンドルを両手で持ち、一方を固定して他方を回転させると重くなったり、軽くなったりする。
- 操作しやすい重さ(硬さ)にする。

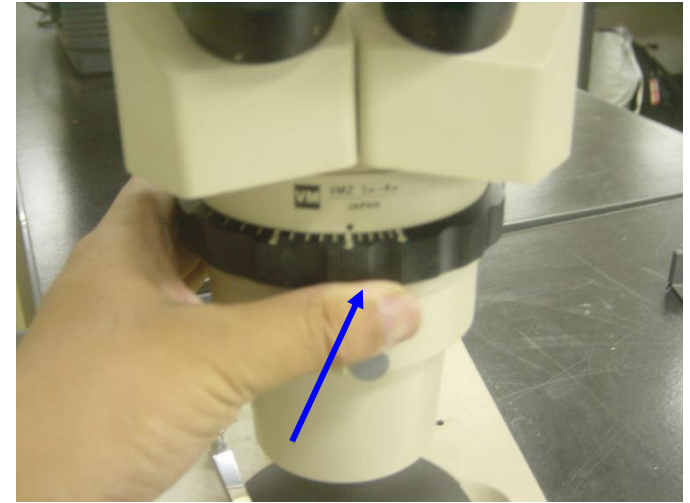
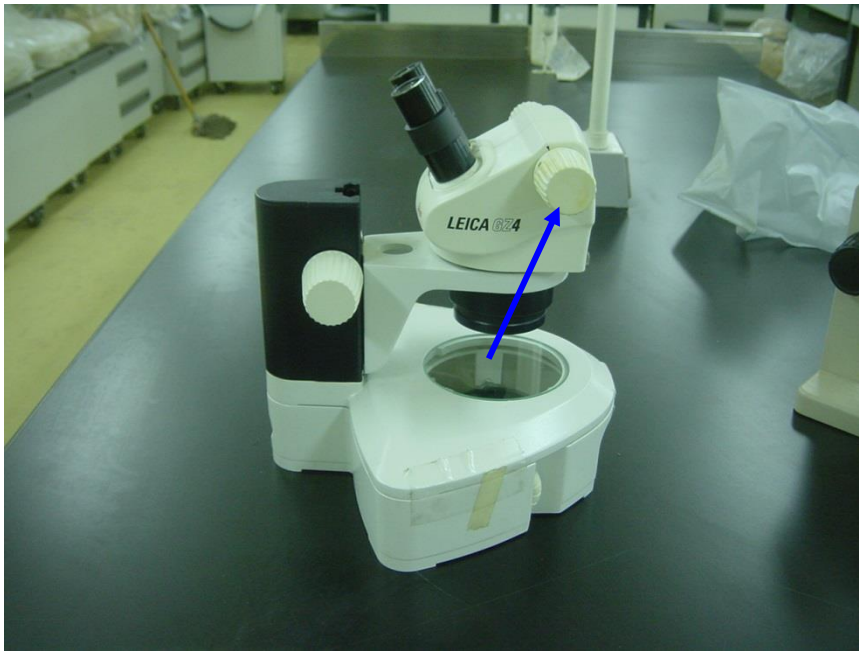
(3) 試料のセット

試料(紙や平面なもの)をステージに置く。
ステージを照明で照らす。



(4) 試料視野調節、ピント合わせ

ズームハンドル(青矢印)を回して、
倍率を最低倍率にする。



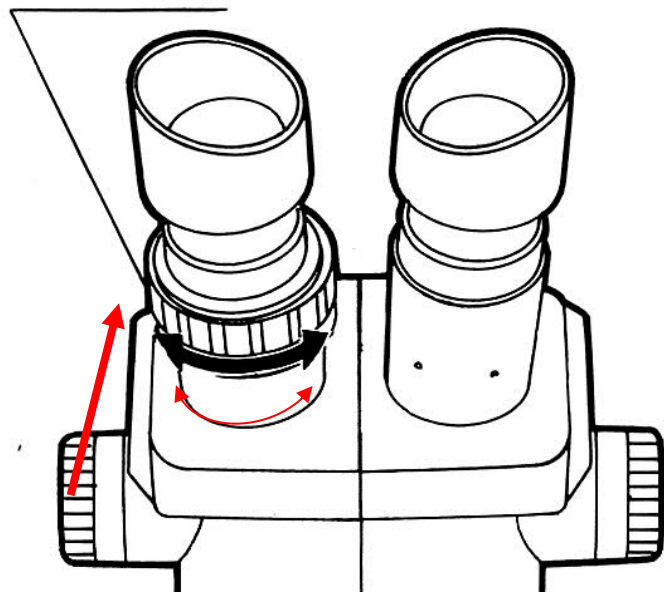
(4) 試料視野調節、ピント合わせ

ズームハンドル(青矢印)を回して、
倍率を最低倍率にする。



右目で右接眼レンズを覗き、焦準ハンドルで試料(紙)にピントを合わせる。

視度調節環



焦準ハンドルをいじらずに、左目で左接眼レンズを覗く。接眼レンズについている視度調節環(赤矢印)を回してピントを合わせる。

右目で右接眼レンズを覗き、焦準ハンドルで試料(紙)にピントを合わせる。



焦準ハンドルをいじらずに、左目で左接眼レンズを覗く。接眼レンズについている視度調節環(赤矢印)を回してピントを合わせる。

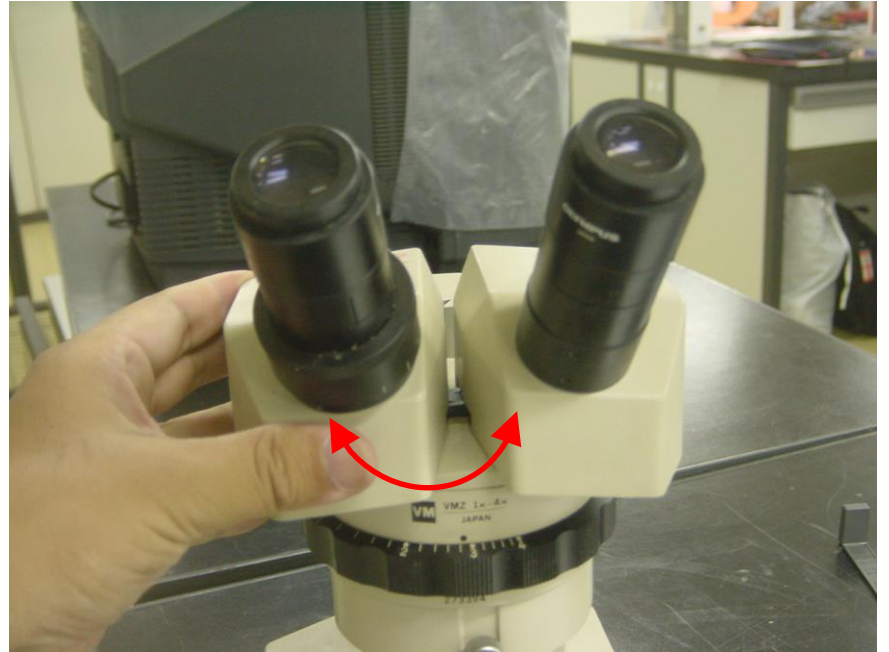
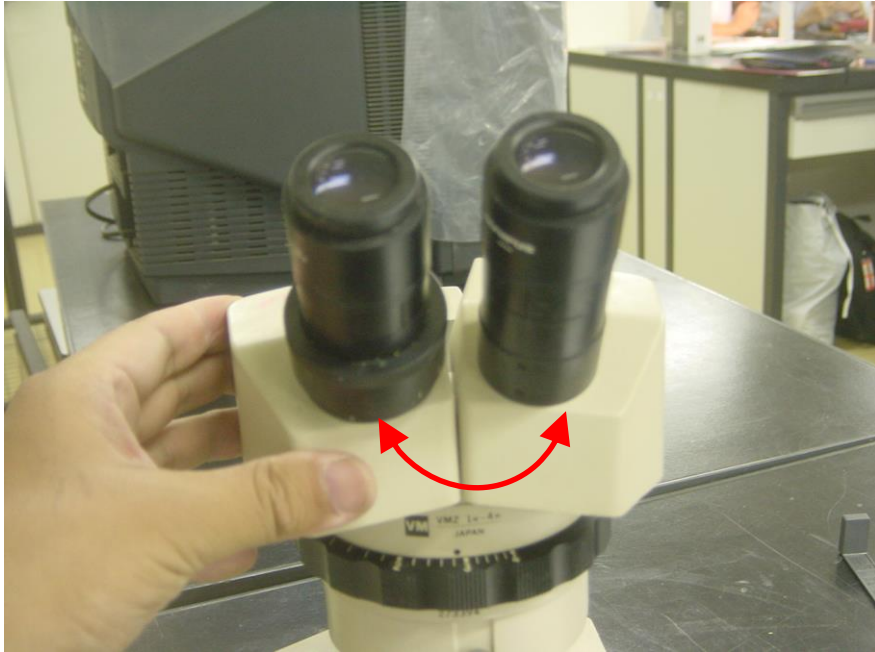
右目で右接眼レンズを覗き、焦準ハンドルで試料(紙)にピントを合わせる。



焦準ハンドルをいじらずに、左目で左接眼レンズを覗く。接眼レンズについている視度調節環(赤矢印)を回してピントを合わせる。

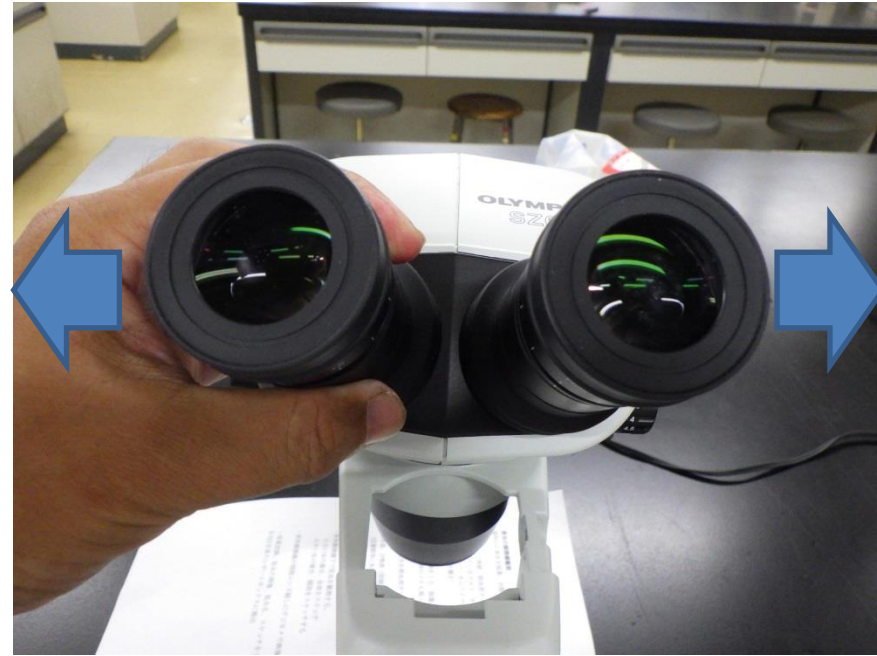
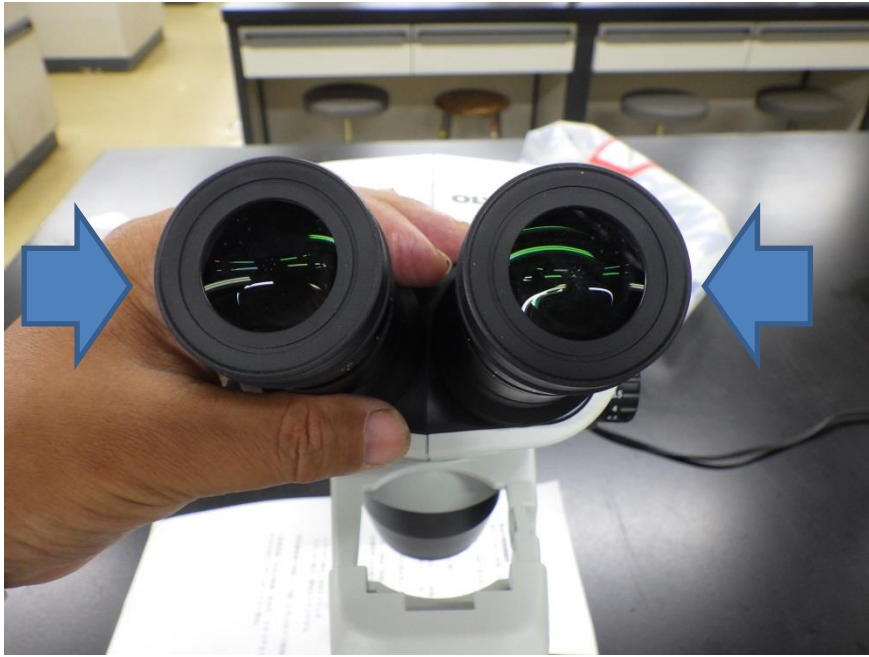
(5) 眼幅の調節

左右の接眼レンズを開いて、左右の視野が一致するようにする。



(5) 眼幅の調節

左右の接眼レンズを開いて、左右の視野が一致するようにする。



(5) 眼幅の調節

左右の接眼レンズを開いて、左右の視野が一致するようにする。



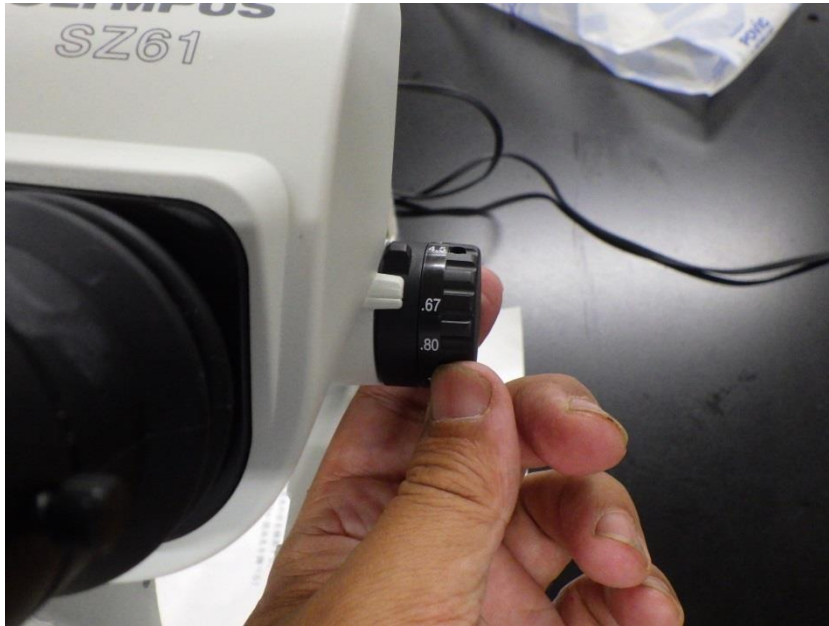
光学顕微鏡も同じ

(6) ズームの使用節

ズームの倍率を変えて、自分の見たい大きさに試料を観察する。

低倍率で見たい所を探して、倍率を上げていくのは顕微鏡観察の基本

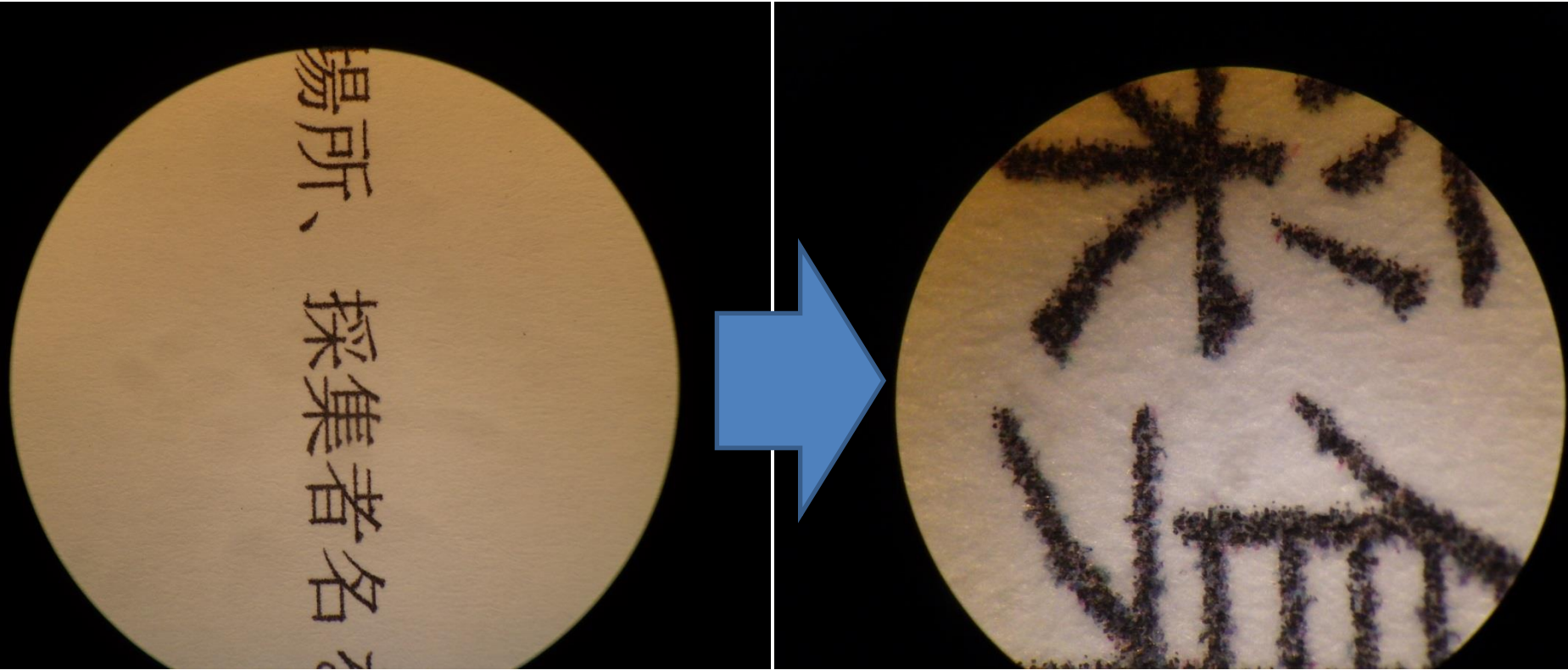
光学顕微鏡も同じ



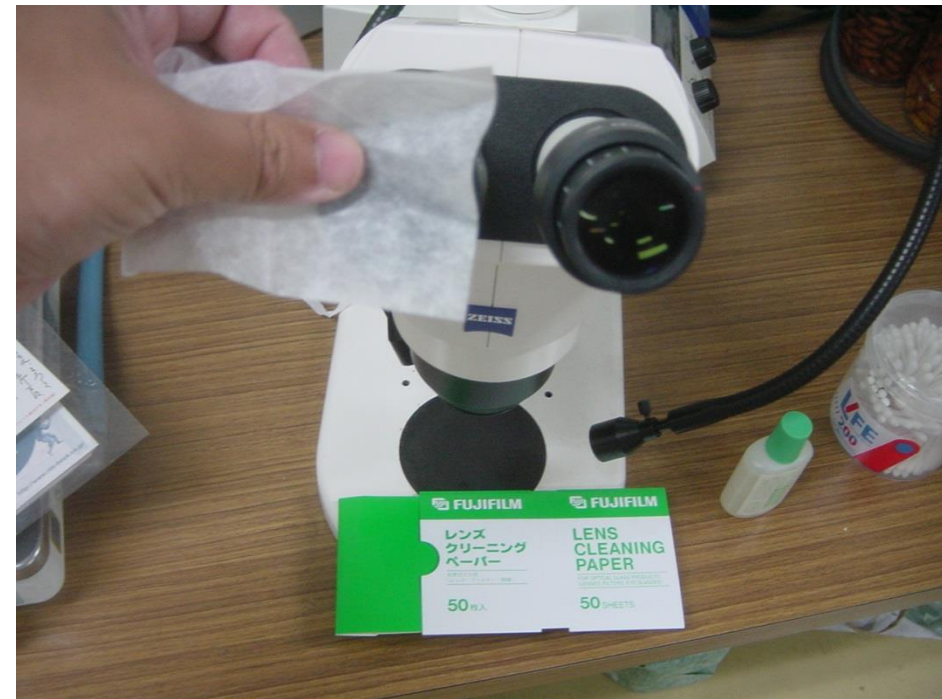
(6) ズームの使用節

ズームの倍率を変えて、自分の見たい大きさに試料を観察する。

低倍率で見たい所を探して、倍率を上げていくのは顕微鏡観察の基本
光学顕微鏡も同じ



(6) 接眼レンズのクリーニング



軽い汚れの場合、レンズクリーニングペーパーで接眼レンズを拭く

酷い汚れの場合、レンズクリーニングリキッドを綿棒につけ、接眼レンズを拭く。この際、中心から外側へ渦の逆周りで拭く。

